

全機能が使える
ACID Pro7体験版を収録!



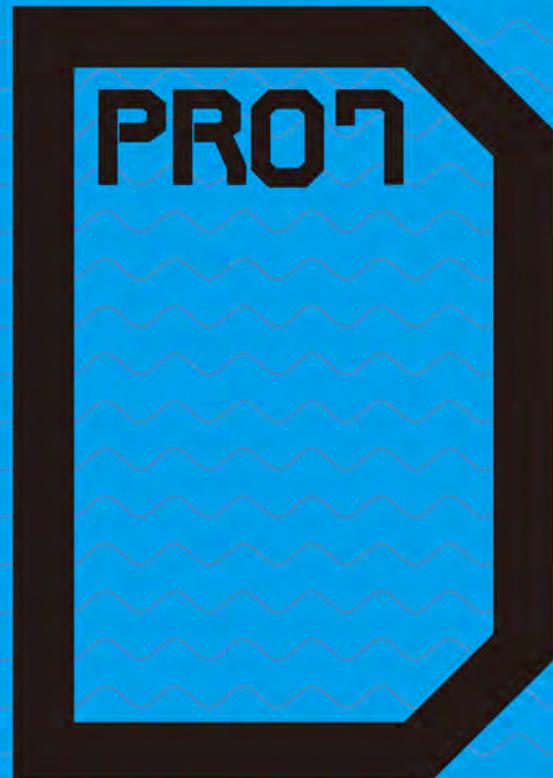
プロが教える

ACID Pro7

実践マスター



目黒真二 著
株式会社フックアップ 協力



PRO7

The image features a central product box for Sony ACID Pro 7, which is black with a glowing green bottom edge. The box displays the Sony logo and the product name 'ACID Pro 7' in white. To the left and right of the box are semi-transparent, overlapping screenshots of the software's user interface. The top-left screenshot shows a multi-track arrangement with various tracks and a mixer. The top-right screenshot shows a 'REBORN' section with a piano keyboard graphic. The bottom-right screenshot shows a detailed mixer and routing console. The word 'REBORN' is written in a large, bold, green font in the upper right corner of the image.

REBORN

ループシーケンスソフトの代名詞である ACID シリーズのニューバージョン「ACID Pro 7」は、単純なループファイルを使った楽曲作りのソフトウェアから、総合的音楽制作アプリケーションに生まれ変わった。

特筆すべきは、オーディオレコーディング/ミックスに関する機能が強化されたことだ。これまでの、どちらかといえば「ループファイルを中心とした曲の構築がメインで、補助的にオーディオレコーディングする」という姿勢から一転し、世に言う「DAW アプリケー

ション」、つまり Pro Tools LE、Cubase、Logic、Digital Performer などと肩を並べるほどの充実したオーディオ機能が装備されている。

生まれ変わったとはいえ、ループファイルの扱いのしやすさは健在。これまでの「グループ感溢れるループファイルで直感的に曲を構築できる」というメインコンセプトはそのままだ。さらにオーディオ機能を充実させることにより、高度でフレキシブルな楽曲作成ができるようになったのだ。

**ACID Pro 7で
プロ環境のレコーディングを
実現!**



Guitar Recording

ギターレコーディング①

バンドルプラグイン Native Instrument 社「Guitar Combo (ギターアンプシミュレーター)」を使い、こだわりのサウンドでギターレコーディングが可能だ。



ギターレコーディング②

もちろん、ギターアンプをマイクで収録してレコーディングすることも可能。マルチトラックレコーディング対応なので、プロのレコーディング現場のようにオンマイクとオフマイクを併用できる。これにより空気感を生かした同時レコーディングが可能だ。



ギターアンプなしでも、スタジオでアンプを鳴らしているかのようなリアルで臨場感溢れるギターアンプサウンドがレコーディングできる。



マルチトラックレコーディング対応だからこそできるこだわりのマイクアレンジ。この際、マイクもこだわってレコーディングしてみよう。

Vocal Recording

ボーカルレコーディング①

ボーカルレコーディングで定番の、コンデンサーマイクを使ったレコーディングもOK。ECHO社のオーディオデバイス「AUDIOFIRE 4」を使用すれば、コンデンサーマイクへのファンタム電源の供給もできる。

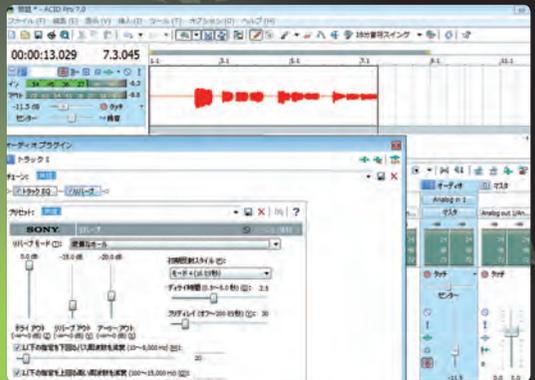
エフェクトのかけ録りはもちろん、モニターのみリバーブなどの残響をかけ、トラックへはクリアなボーカルテイクをレコーディングする、といったことも可能だ。



入力バス搭載によるフレキシブルなレコーディング/モニター環境が構築できる。

ボーカルレコーディング②

ボーカルトラックのレコーディングに欠かせないダイナミクスエフェクトには、ACID Pro 7のバンドルプラグイン「iZotopeエフェクトトラックダイナミクス」を使うことで理想の音作りが行える。



ボーカルレコーディングはエフェクトが決め手。とことん音作りにこだわってみよう。

Drum Recording

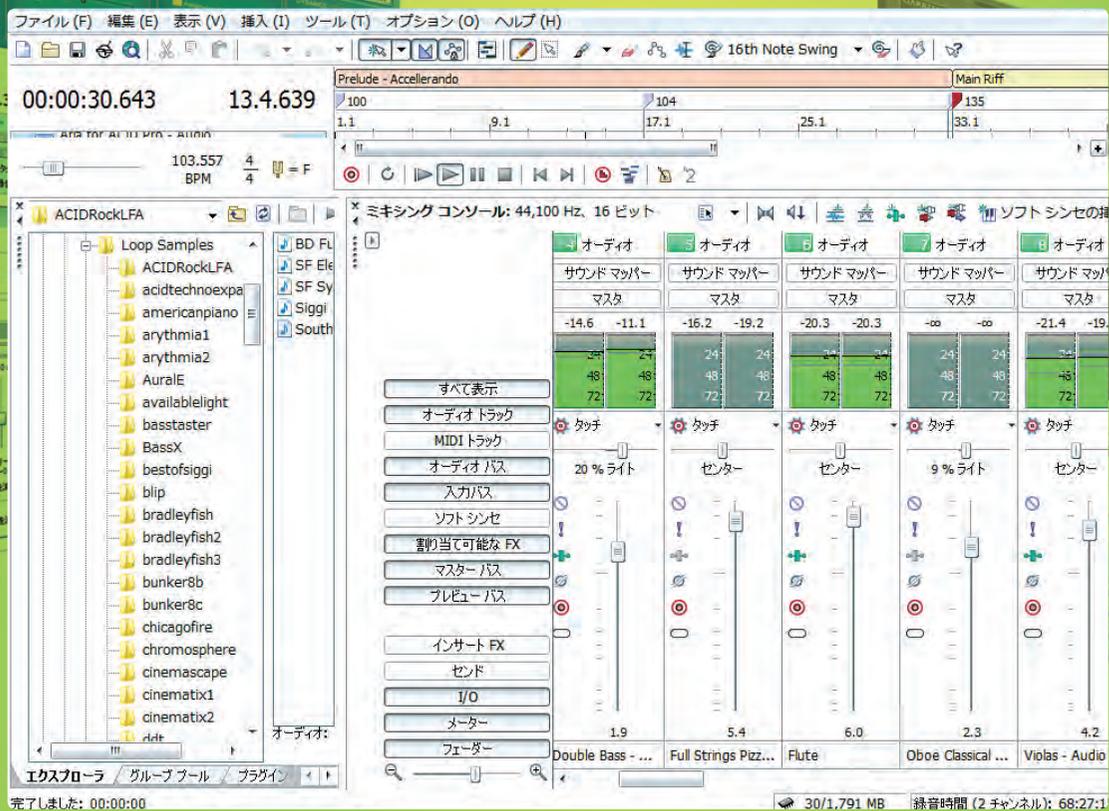
ドラムレコーディング

ドラムの各パートを別々のトラックで同時にレコーディングし、さらにバンド全体の演奏も楽器ごとに別々のトラックでレコーディングできる。だからセッションを1発録りでレコーディングすることができるのだ！



ドラムキットの各パーツに好みのマイクをチョイスしてセットし、納得のドラムサウンドでレコーディングを行おう。そしてバンド1発録りならではの臨場感を、余すことなく収録しよう！

キックにはダイナミックマイク、オーバートップ（シンバル類）にはコンデンサーマイクをセットし、プロと同じ環境でのレコーディングが可能。マルチトラックでレコーディングすれば後からエフェクトを駆使したこだわりのサウンド作りが行える。

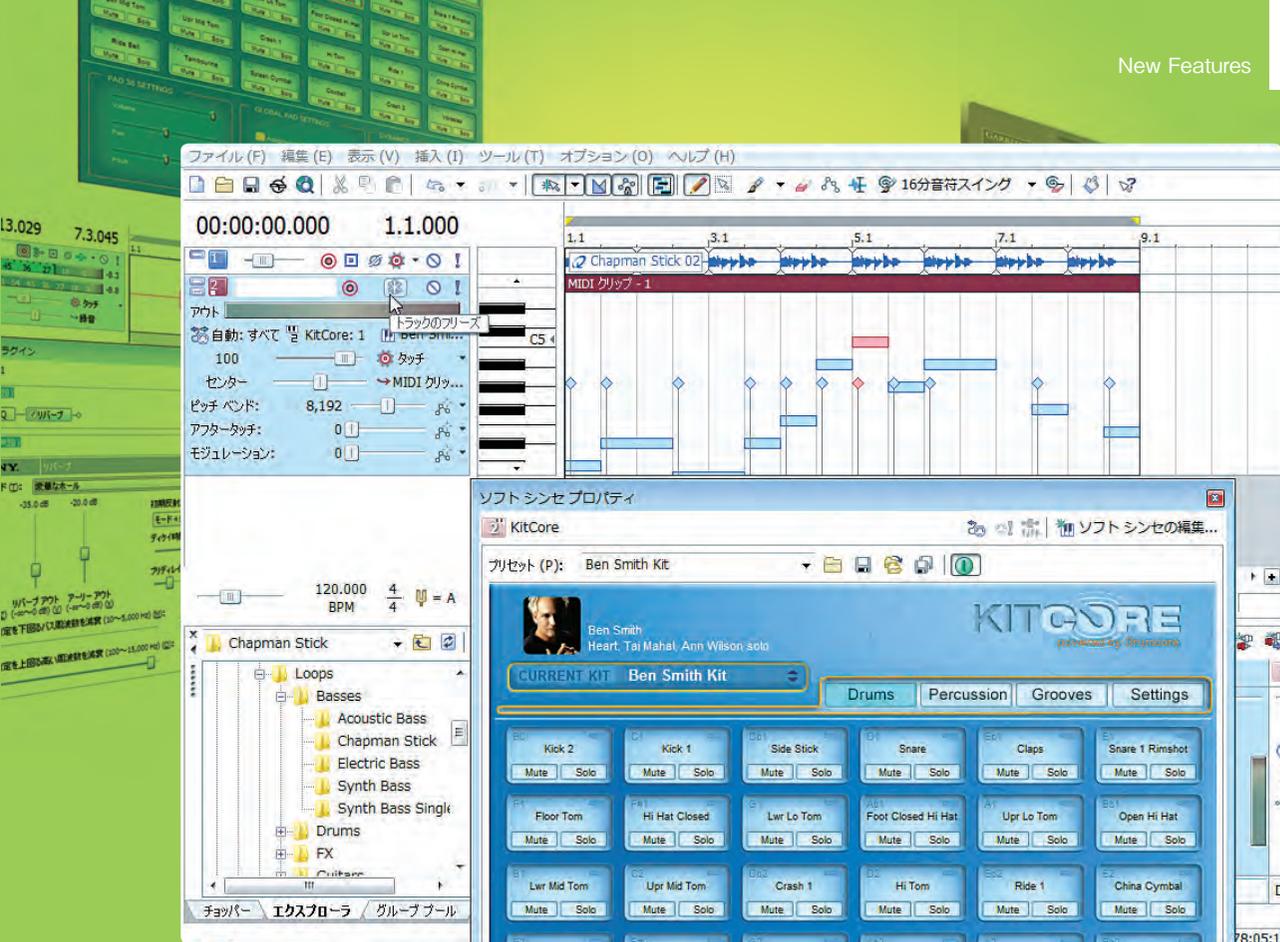


新デザインのミキシングコンソールは視認性もよく、さらに表示項目をボタン1つで切り替えることができるので、レコーディングからミックスまでストレスなく操作することができる。



オーディオ／ ミキシングコンソール 搭載

デザインが一新されたコンソール（ミキサー）では、オーディオ／MIDIの情報がひと目で確認できるようになった。また、信号の種類により表示を一括して表示／非表示にできるため、操作の集中化ができる。そのため作業効率も大幅にアップするのがポイントだ。

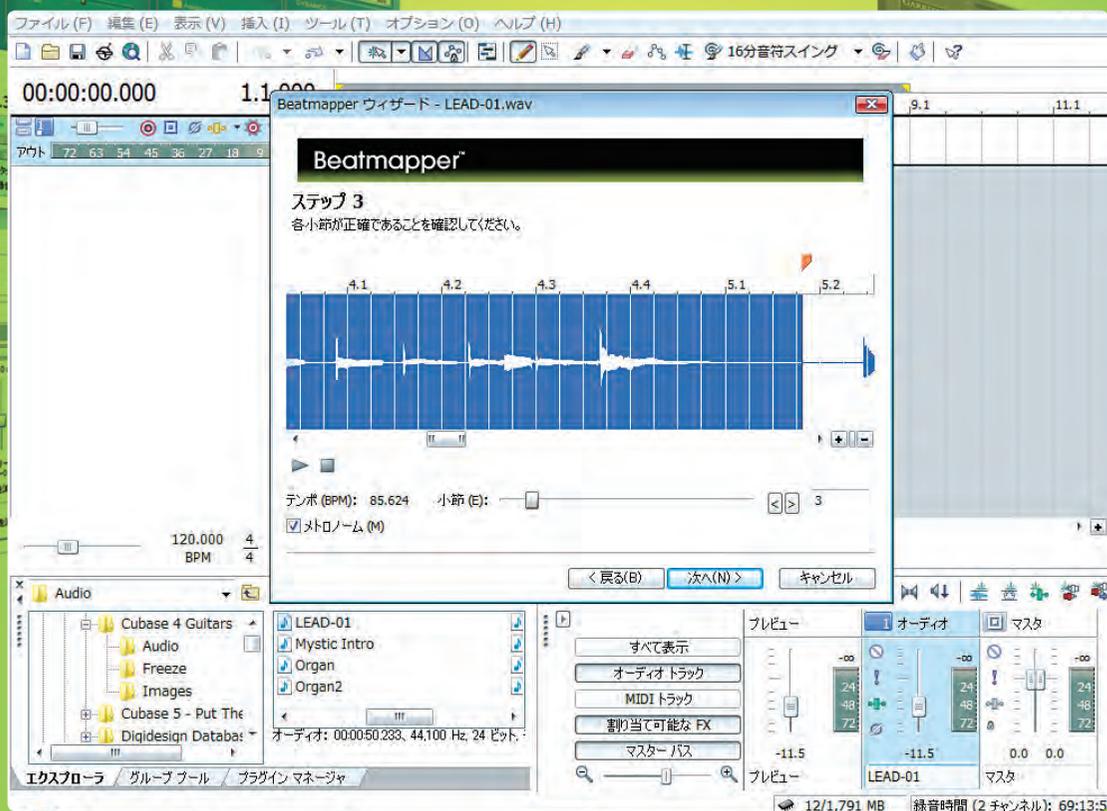


フリーズはトラックにある「フリーズ」のアイコンをクリックするだけで手軽に実現できる。もちろん、フリーズを解除して元のMIDIデータに戻すことも可能だ。



MIDIトラックフリーズ

ソフトシンセを多数使用しているとパソコンに大きな負荷がかかり、最悪の場合はハングアップしてしまうこともある。これを避けるため、MIDIトラックのソフトシンセのサウンドをオーディオファイルに変換し、CPU処理能力を効率化するのがフリーズ機能。これで、壮大なトラックを持つプロジェクトでも安心して作業ができる。

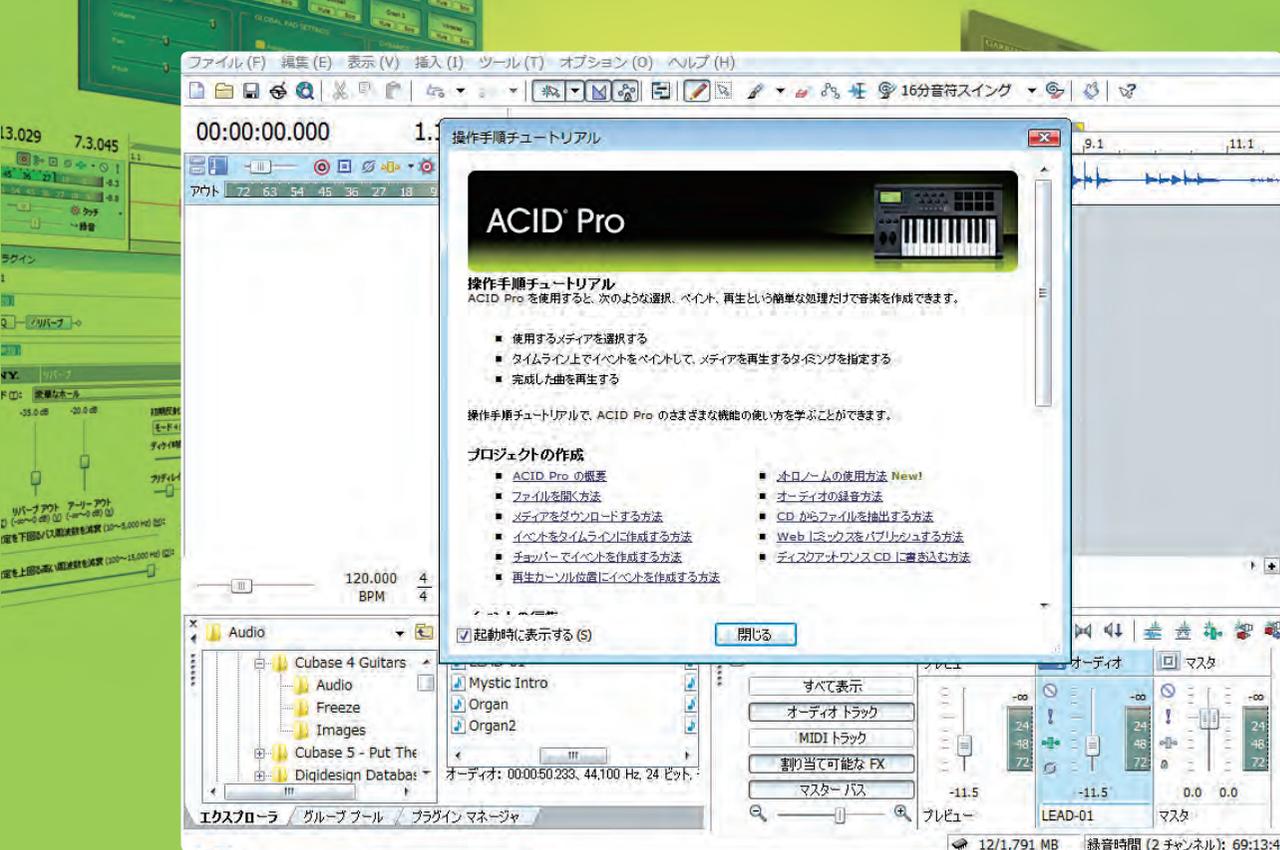


リミキサーにはなくてはならない Beatmapper も進化を遂げ、さらに使いやすくなった。



Beatmapperツールの強化

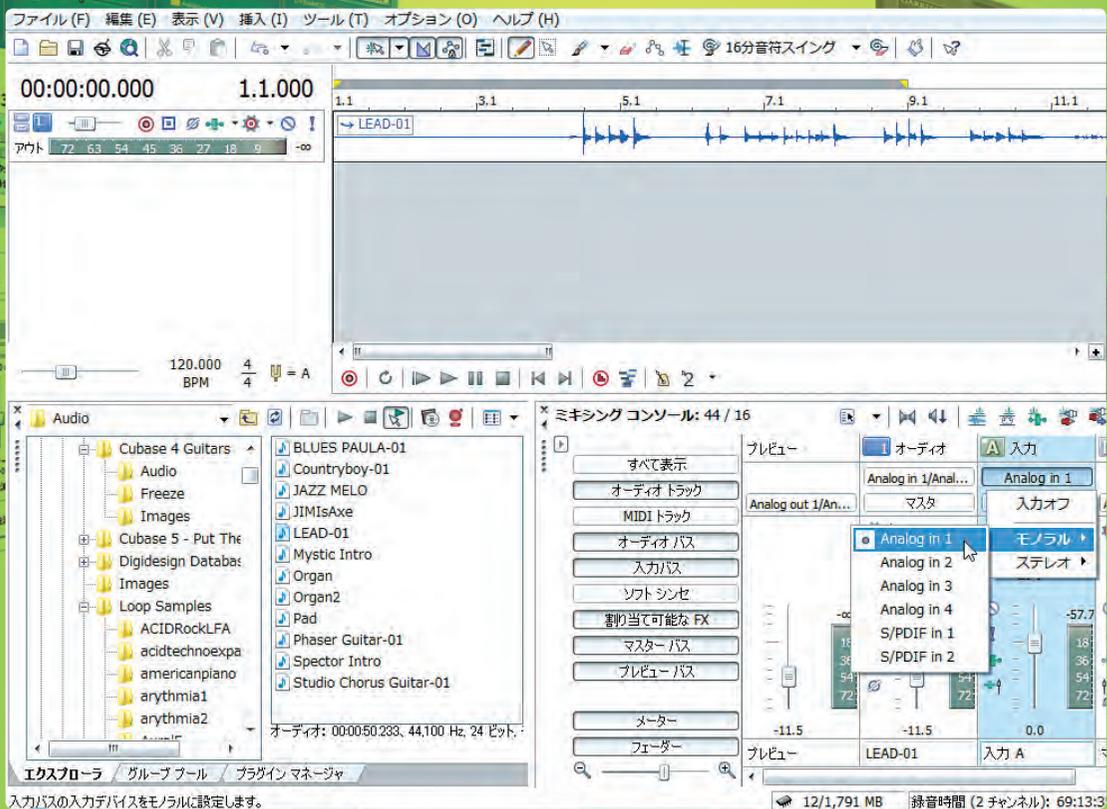
Beatmapper は、オーディオファイルのテンポを割り出す機能。この機能は以前のバージョンにもあったが、ACID Pro 7 ではさらに強化され、テンポや拍子の変化にも柔軟な対応ができるようになった。これでリミックス作成の自由度がアップし、様々なジャンル/スタイルに対応できるようになった。



初心者や他の DAW アプリケーションから乗り換え組も、このチュートリアルがあればすぐに使い方をマスターできる。

「操作手順チュートリアル」 を搭載

基本的な編集操作から高度な制作技術までの操作を、メニューから項目を選択して表示される手順に従い、実際に操作しながら学べる「操作手順チュートリアル」が加わった。デフォルトでは ACID Pro 7 起動時に開くが、随時メニューの「ヘルプ」からアクセスできるので、知りたい操作が制作途中でも素早く理解できる。

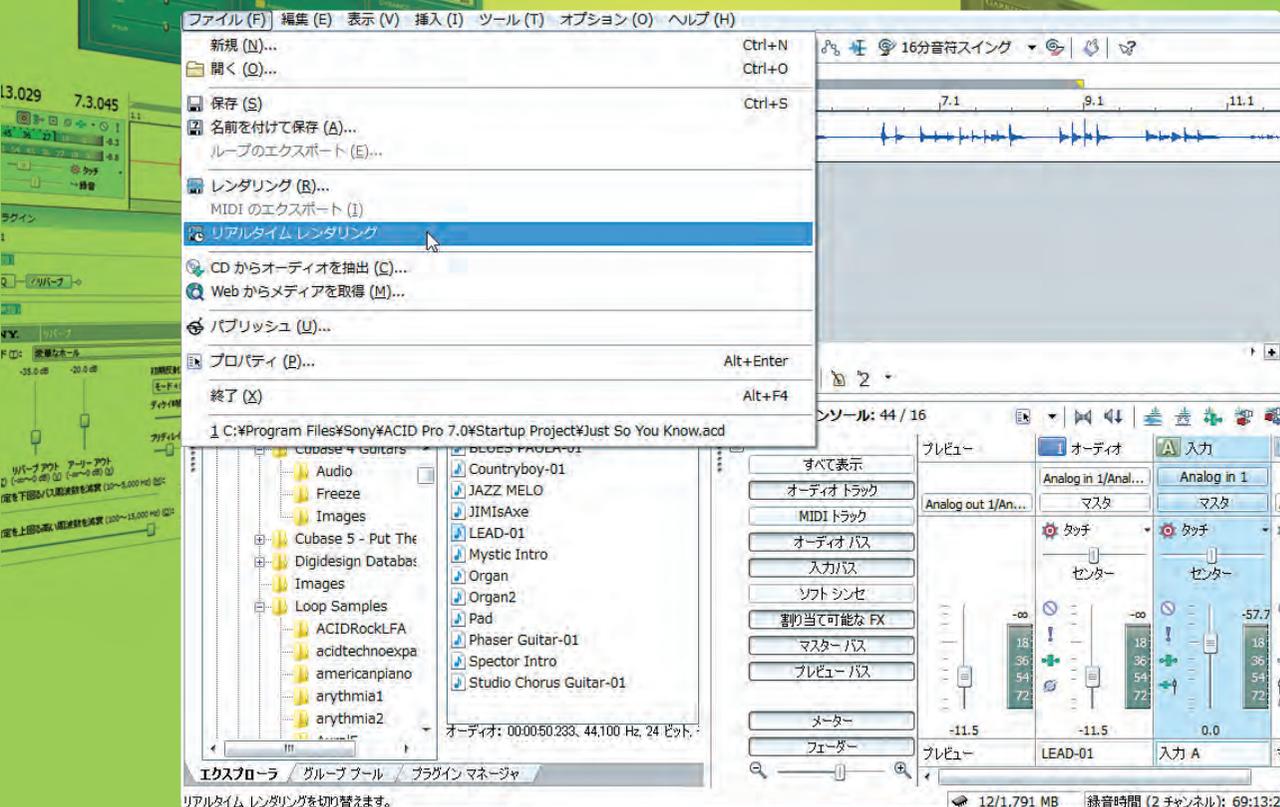


これぞ DAW アプリケーションの証。入力バスは同じ価格帯の DAW アプリケーションでも装備されていないものが多い。それだけに、ACID Pro 7 のアドバンテージは絶大だ。



入力バス搭載

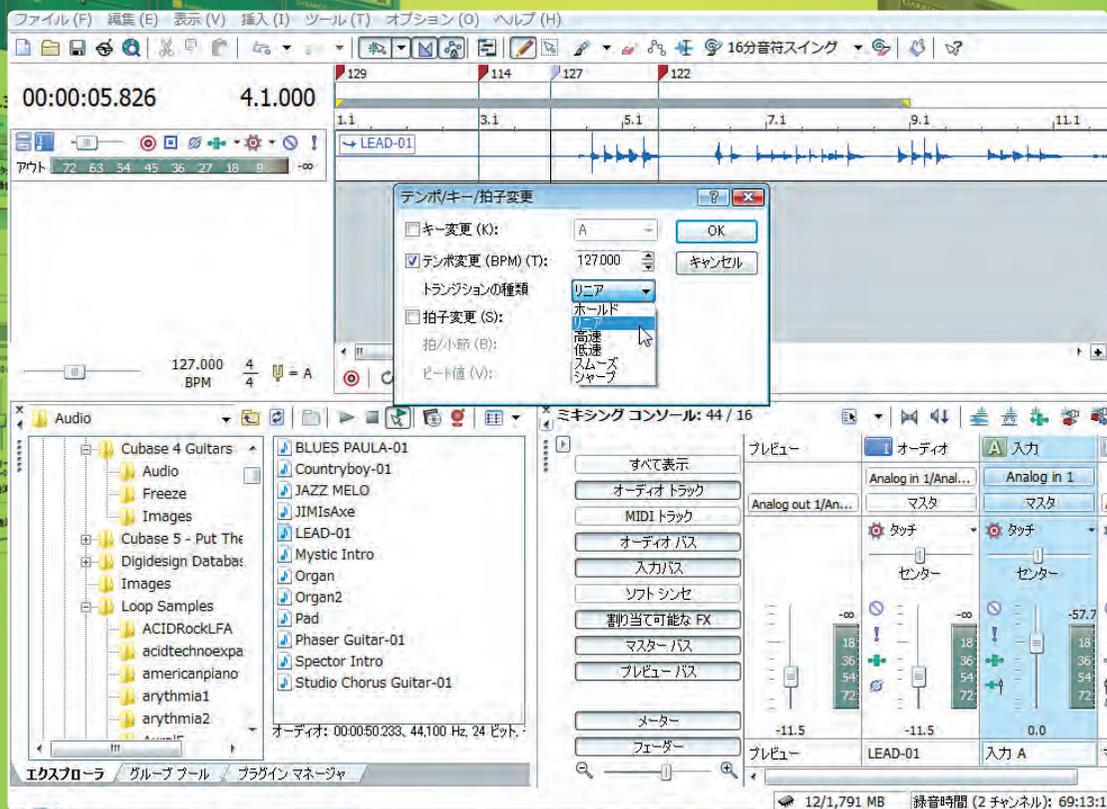
入力バスは ACID Pro 7 のプロジェクトに、外部オーディオをルーティングするバス。この入力バスが加わったことにより、外部オーディオとプロジェクトの音を自由にミックスしたり、外部オーディオの音に ACID Pro 7 のエフェクトをかけてレコーディングしたりすることができる。これで、より緻密な音作りができるようになった。



ReWire対応DAWアプリケーションは数多いが、プロジェクトと同時にレンダリングすることができなければアドバンテージにはならない。ここでもACID Pro 7の魅力が光る。

リアルタイムレンダリング 搭載

レンダリングとは、プロジェクトをWAVファイルなどのオーディオデータへ変換することだが、ACID Pro 7では、このレンダリングをリアルタイムで実行することができる。外部オーディオの音声をミックスしながらレンダリングすることもできるので、例えばReWireで接続したアプリケーションと一括してミックスダウンすることが可能になった。

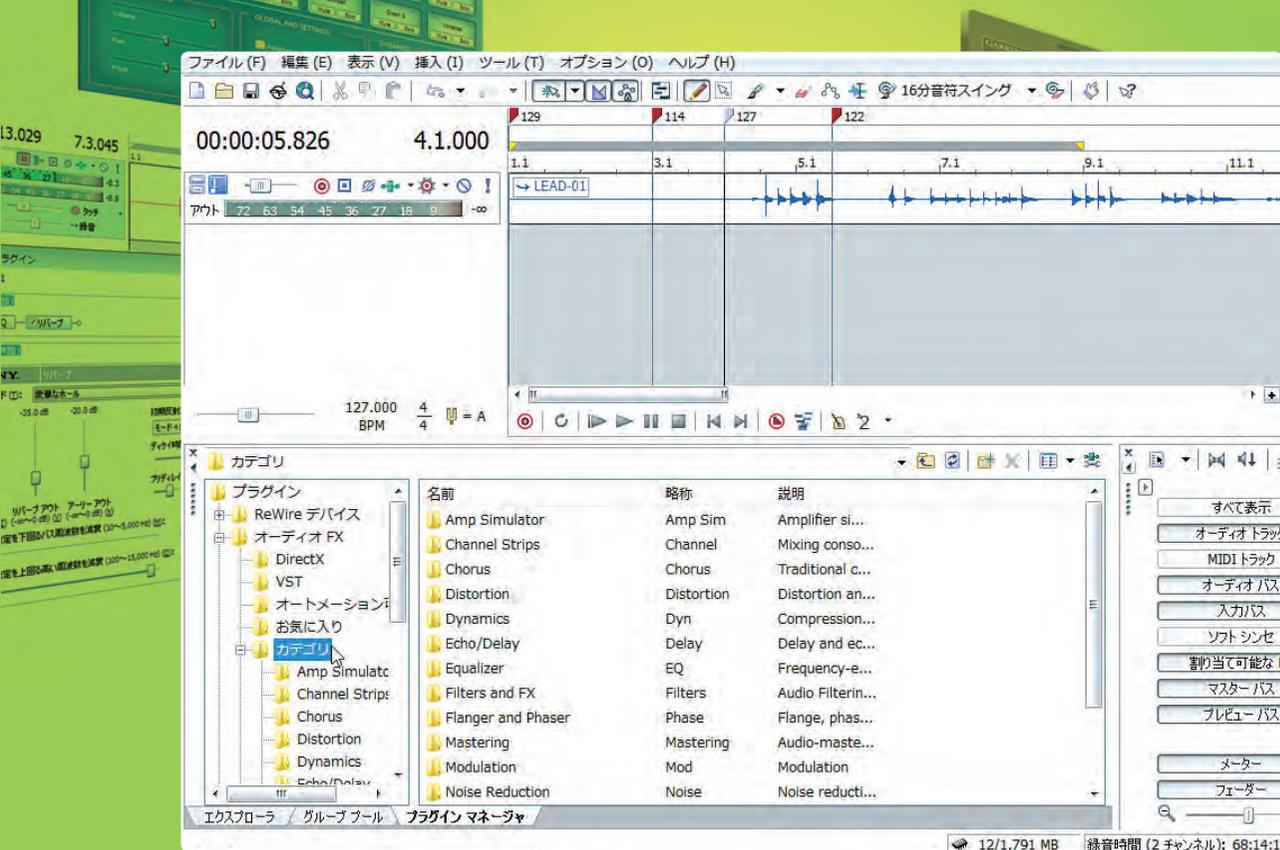


これまでの煩雑な作業でモチベーションが下がっていた人も、このテンポカーブを使えばワンタッチで思い通りのテンポチェンジを作り出せる。



テンポカーブ搭載

テンポカーブは、プロジェクト上のテンポの変化を急激に、または微妙に調整する機能。これまでは、テンポをスムーズに変化させようとすると、たくさんのテンポ変更のポイントを作る必要があった。今回この機能が搭載されたことで手順が簡素化され、作業効率はガンとアップした。



音作りにこだわるほどに増えていくプラグイン。効率良く使うためにはこのプラグイン マネージャーは必須だ。

プラグインマネージャーの強化

VST、DirectXなどのプラグインを管理するプラグインマネージャーが強化され、検索が高速化された。これに加え、プラグインをカテゴリ別に整理／表示したり、プラグインの名称を変更したりすることもできるようになった。使いたいプラグインをすぐに探すことができるだけでなく、ジャンルやスタイルに合わせて、よく使うプラグインをまとめておくこともできる。

プロジェクトをより高度なものに 発展させるバンドルプラグイン満載



圧倒的な音質そして表現力で、無機質なMIDIデータを最上のものにしてくれるGarritan ARIA for Pro player。

Garritan ARIA for Pro player

MIDIデータ作成に威力を発揮する、オーケストラ、ビッグバンド、そしてGMなど、多彩な音色と表現力を持つプレイバックサンプラー。



暖かい質感でトラックを演出してくれるACID Pro Effects Rack。

ACID Pro Effects Rack

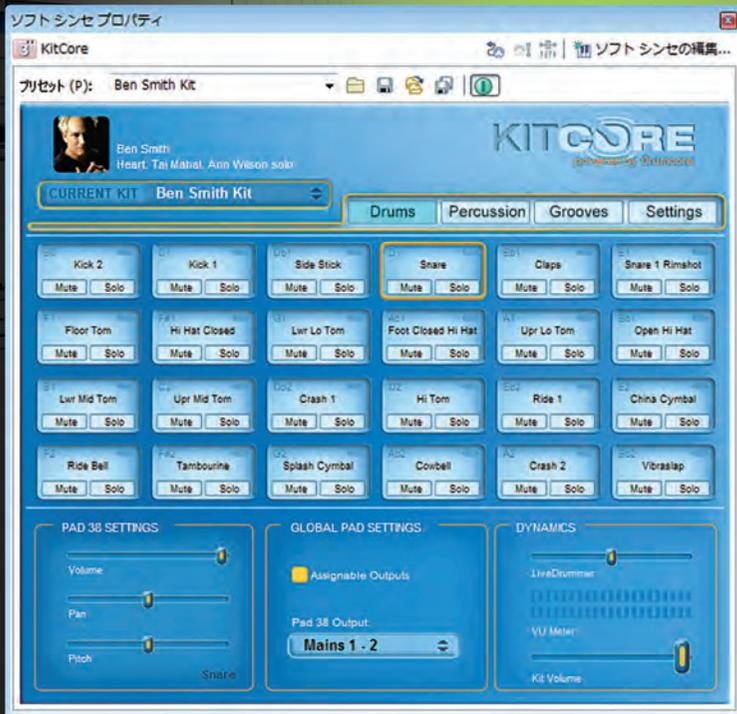
フランジャー、フェイザー、アナログディレイ、ダイナミクスなど、トラックやミックスでの音の仕上げに欠かせないエフェクト群が付属。



Native Instruments Guitar Combo

ギターレコーディングに欠かせないギターアンプシミュレータープラグインが付属。機種は「AC Box Combo」「Twang Combo」「Plexi Combo」など3つの代表的なギターアンプの名機が用意されている。

数々の名作アルバムで聞くことができる最高のギターアンプサウンドを再現する Guitar Combo を使えば、ギタートラックの表現力がさらにアップする。



普段ドラムはループファイルに頼っている、という人もぜひこのKitCoreを活用してイメージ通りのグループを作ってみよう。

Submersible Music KitCore

ドラムキットからパーカッションまでを網羅したドラム音源。グループ感溢れる MIDI データも収録され、ドラッグ&ドロップで MIDI トラックに挿入して簡単にドラムパターンを構築できるのが魅力。

A

プロが教える

ACID Pro7

実践マスター



目黒真二 著
株式会社フックアップ 協力

I

PRO7

本書は電子書籍のため、CD-ROMは付属していません。
本書で使用したサンプル・ループは以下のURLからダウンロードし、ご利用ください。

【Loopサンプルについて】

- ◎ラトルズネットやAmazonなど電子書店から購入された方は、
www.rutles.net/download/329からダウンロードできます。
- ◎ソースネクスト株式会社から購入された方は、
ソースネクスト社のマイページからダウンロードできます。

免責事項について

Loopサンプルの運用や、本書の記述によって万が一損害が生じた場合でも、著者、発行者、ならびにソフトウェア開発者はその責を負いません。お客様の責任とリスクの範囲内でご利用くださいますようお願いいたします。

本書に記載されている内容は、初版執筆時の情報に基づいています。執筆後に更新された情報やソフトウェアのバージョンアップなどには対応しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

内容のお問い合わせについて

- 誤字脱字およびミスプリントのご指摘は、当社 Web サイト (<http://www.rutles.net/>) の「ご質問ご意見ページ」をご利用下さい。電話・電子メール・FAX等でのお問い合わせは一切受け付けておりません。
- 本書をよく読めばわかることや、内容と関係のないご質問（「○○はどこに書いてあるのか」「パソコンやソフトが不安定（動かない）なのはなぜか」「ソフトの使い方が分からない」「こんなテクニックを教えてください」など）にはお答えしませんが、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容についての文責は（株）ラトルズにあります。本書記載事項について、各ハードウェアおよびソフトウェア開発元へのお問い合わせはご遠慮ください。

本書に掲載した会社名、製品名、ソフト名などは、一般に各メーカーの商標または登録商標です。

+

はじめに

筆者がACIDシリーズと出会ったのはまだバージョン2.0の頃であったが、その出会いは筆者のこれまでの既成概念を「ぶっ壊す」ほど衝撃な体験だった。それまで「そんなことはできない」「できるかもしれないが時間がかかる」「できるが音質が変わってしまう」と思っていたことが、目の前でリアルタイムに、しかも音質劣化もなくてできるのを実感し、体の震えが止まらなかったことを今でもありありと記憶している。

その後、ACIDシリーズとは深く関わり、生まれて初めてのガイド本を執筆、そしてバージョンアップするたびにガイド本やガイドDVDを制作し、もちろん自己の音楽制作にも多用してきた。

そして今回のACID Pro 7の登場は、筆者に「新たなDAWアプリケーションの可能性」を感じさせる。

新機能は、「これまで備わっていなかったものの補足」ではなく、「これから必要なものを装備」させたもので、特にオーディオレコーディングに関する機能は、ACID Pro 7ならではの洗練されたアルゴリズムで、操作や音質に関してもこれまでのDAWアプリケーションをはるかに凌駕する内容となっている。

本書では、ベーシックな使い方はもちろん、新機能をダイジェストに紹介したり、その実践をも掲載したりしているだけではなく、オーディオレコーディング/ミックスに関する根本的な基礎、知識、操作なども徹底的に解説している。これまでなんとなくオーディオレコーディングやミックスをしてきた人や、さっぱりこの辺の知識がないという人にも大いに参考になるはずである。

初めてACID Pro 7に触れる人、そしてこれまでのバージョンを使ってきた人、他のDAWアプリケーションから乗り換える人、すべての人に役立つ内容だと自負している。

本書を熟読し、新たなサウンドクリエイター達が誕生するのを期待している。

2009年5月

筆者

CONTENTS 目次

introduction + ACID Pro 7でプロ環境のレコーディングを実現! + ここが変わった! ACID Pro 7

chapter 1			
ACID Pro 7の概要			
7			
	1		
	1-01	ACIDシリーズの特長と、ACID Pro 7の基本的な使い方	8
		コラム まだ迷っているなら体験版を試してみよう!	15
	1-02	とにかく ACID Pro 7 で曲を作ってみよう	16
	1-03	曲づくりの実践	25
		コラム プレビュー再生のボリュームを調整するには	29
		コラム キーは何種類?	33
		コラム Windows Media Player の再生音が、オーディオデバイスから鳴らないときは?	41
	1-04	出来上がった曲に名前を付けて保存する	43

chapter 2			
ループファイルを自在に操る			
45			
	2		
	2-01	ループファイルを深く知ろう!	46
	2-02	「ワンショット」の使い方を理解する	48
	2-03	ループとワンショットを組み合わせてアクセントを付ける	50
		コラム 小節数をきちんと表示するには?	53
	2-04	ワンショットの応用	55
		コラム 作成したパターンを1つのループとして書き出すには?	64
	2-05	チョッパーツールを活用する	68
	2-06	「グループボール」で既存のループファイルのグループを変える	72
		コラム 既存のループファイルを他のループファイルに適合させる	76
	2-07	プロジェクトキーを変更して擬似コード進行を作る	79
	2-08	テンポを変更する	83
	2-09	Beatmapper を使ったリミックス	86
		コラム ダウンビートがずれていたなら?	89
		コラム ビートマップしたファイルのキー変更	93

MIDIデータを 作成しよう

95

3

3-01	MIDI データ作成のポイント	96
3-02	マウスによる入力 コラム ループ再生の範囲設定のヒント	97 103
3-03	ベロシティの設定 コラム MIDIにも適用できる「グループプール」	104 108
3-04	MIDI キーボードによるステップ入力	109
3-05	入力後のタイミング調整	117
3-06	MIDI キーボードによるリアルタイム入力	119
3-07	MIDI キーボードのオクターブ設定と MIDI メッセージのオフ	126
3-08	入力したデータを確認し修正する	129
3-09	クオンタイズを利用したタイミングの調整 コラム MIDI ファイルをプロジェクトに読み込むには？	132 134

ACID Pro 7での オーディオ レコーディング

135

4

4-01	オーディオレコーディングに必要な知識	136
4-02	ACID Pro 7 でのギターライン録りの実際 コラム 音が二重に聴こえる時は？ コラム レコーディングしたデータを使い回すには？	148 152 161
4-03	ACID Pro 7 でのマイク録りの実際 コラム 別トラックにレコーディングしたクリップをつなぎ合わせるには	163 176

他のアプリケーションや プラグインとの連携

179

5

5-01	連携で曲をパワーアップしよう！	180
5-02	Steinberg Cubase 5 と ReWire で接続する コラム 起動と終了の順序に注意	181 183
5-03	FL Studio 8 Fruity Edition と ReWire で接続する コラム FL Studio 8 Fruity Edition で アシッドサイズ WAV ファイルを作るには？	184 187
5-04	Sound Forge Audio Studio 9.0 との連携 コラム Sound Forge Audio Studio 9 で アシッドサイズ WAV ファイルを作るには？	188 196
5-05	Reason 4 と連携したリアルタイムレンダリング	199
5-06	Melodyne でボーカルのピッチを修正する	204

chapter 6

ミックスの基礎

209

6

6-01	音量と定位	210
6-02	エフェクトを利用して定位の操作を行う	215
6-03	オートメーションによる曲の進行での音量と定位の操作	219
6-04	ミックスの前に準備しておくこと	221
	コラム 新規プロジェクトを作成する際にバスを追加するには？	227
	コラム エフェクトがたくさんあって、よくわからない!?	234

chapter 7

ミックスの実際

235

7

7-01	本格的なミックスをマスターしよう！	236
7-02	ミックスの手順Ⅰ：各トラックの補正	238
	コラム 自分でレコーディングしたキックの場合	240
7-03	ミックスの手順Ⅱ：バストラックの補正	248
7-04	ミックスの手順Ⅲ：音量／定位の設定	256
7-05	ミックスの手順Ⅳ：残響の調整（バスセンドのリバープ）	261
	コラム 「アーリーアウト」とか「初期反射」って何？	264
	コラム パラメーターを正確に設定するためには？	270
7-06	ミックスの手順Ⅴ：曲の進行中の音量&定位の調整（オートメーション）	271
7-07	ミックスの手順Ⅵ：曲全体の音質の調整（マスタエフェクト）	282

chapter 8

**レンダリング・
マスタリング・CDの作成**

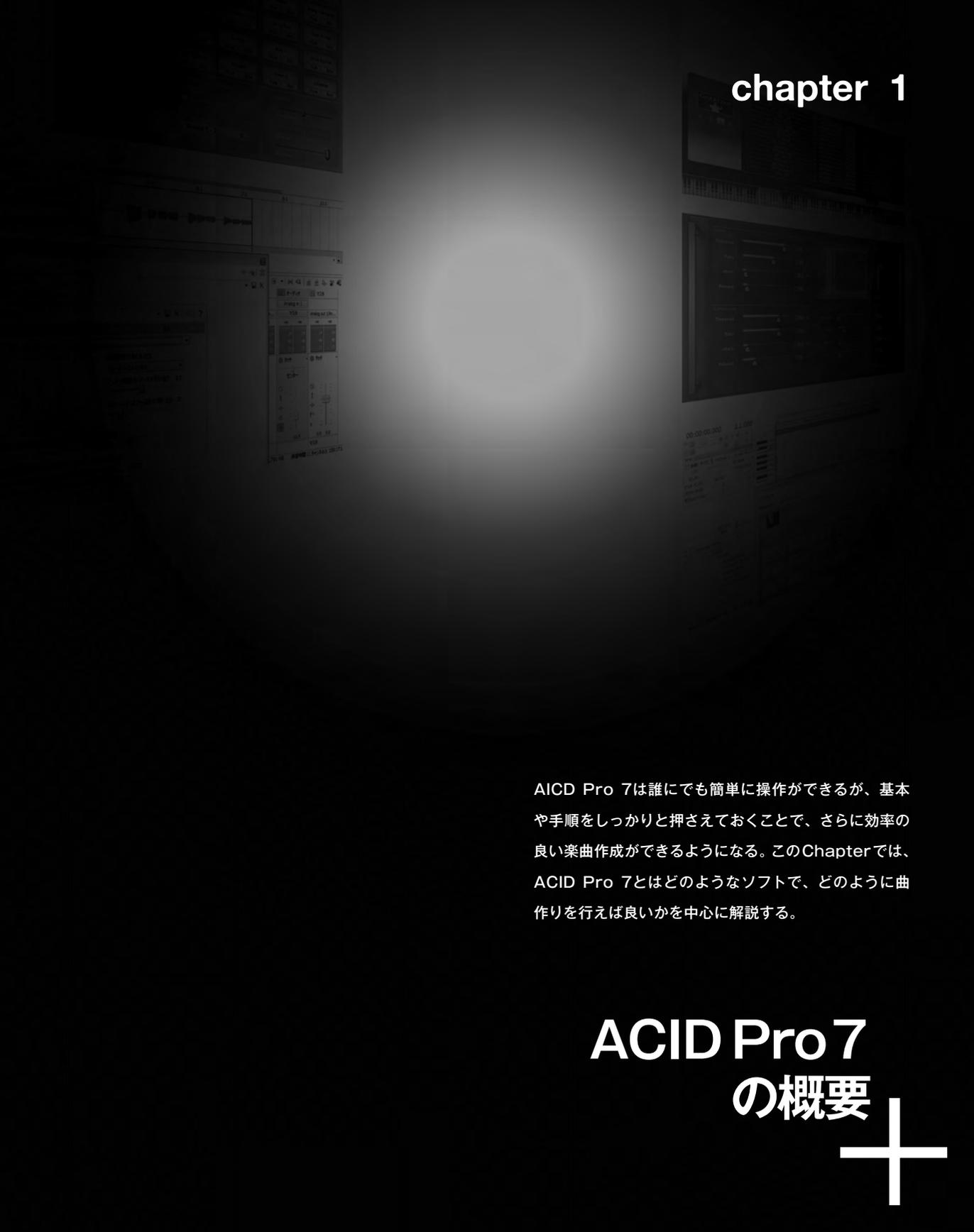
285

8

8-01	レンダリング	286
8-02	マスタリング	289
8-03	オーディオ CD のライティング	294

INDEX (索引)

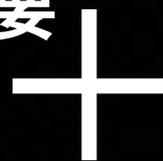
300



chapter 1

ACID Pro 7は誰にでも簡単に操作ができるが、基本や手順をしっかりと押さえておくことで、さらに効率の良い楽曲作成ができるようになる。このChapterでは、ACID Pro 7とはどのようなソフトで、どのように曲作りを行えば良いかを中心に解説する。

ACID Pro 7 の概要



Chapter Paragraph Title

1 01 ACIDシリーズの特長と、 ACID Pro 7の基本的な使い方



DAWアプリケーション

Digital Audio Workstation。デジタル領域でオーディオの録音、編集、ミキシングができるように構成されたアプリケーションのこと。

WAVファイル

Windows 標準の音声データ形式。拡張子が「.wav」などから「ワブファイル」と呼ばれることが多いが、正しくは「WAVe（ウェーブ）ファイル」である。本書での表記は「WAVファイル」としている。

キー

キーとは音楽的な意味では「調」ということだが、ACIDシリーズでは「ループファイルや曲の音程の高さ／低さ」を表していると考えておこう。

エフェクト

音質を変えたり残響を加えたりする機能のこと。以前はハードウェアによるエフェクトが主流だったが、現在ではソフトウェアによるエフェクトが主流になっている。DirectX（ダイレクトエックス）、VST（バイエスティアー）ともにソフトウェアベースのエフェクトの規格。

ACIDとはどんなソフト？

ACIDシリーズの誕生は1998年。「オーディオルーブシーケンサー」と呼ばれるジャンルを築き上げた先駆的なDAWアプリケーション*である。「ループ」と呼ばれる数小節からなるオーディオファイルをトラックヘドラッグ&ドロップするだけで、誰でも簡単に曲作りができ、さらにリアルタイムでテンポやピッチの変更が可能という驚異的な機能を引っさげデビュー。当時の音楽制作界の話題をさらった。

リアルタイムでのテンポ／ピッチ変更を行っても音質はほとんど変わらず、かつその操作のほとんどがドラッグ&ドロップで可能な理由は、ループファイルに使用されるWAVファイル*に対し「アシッドサイズ」と呼ばれる「拍／テンポ／キー*情報」を付加させることによって実現させている。現在では多くのDAWアプリケーションがこの「アシッドサイズWAV」に対応しており、業界標準のファイル形式として、市販されている多くの素材集にも採用されている。

また、音作りを行う際に必須のエフェクト*も、Direct X、VSTに対応、付属されている豊富なエフェクトに加え、他社のエフェクトを購入すれば幅広い音作りも可能だ。



ACID Pro 7のパッケージ。

そんなACID Proが「バージョン7」になった。今回のバージョンアップは、巻頭でも紹介した新機能を追加することにより「完全なマルチトラック録音／ミキシング／MIDI※機能の充実による、総合的なDAWアプリケーションへの変身」が主眼だ。さらに、これまでのACIDシリーズが培ってきた「オーディオループシーケンサー」としての使いやすさも見事に統合しているといっていだろう。

なおACIDシリーズにはACID Pro 7の他に弟分的存在の「ACID Music Studio 7」というコンシューマー向けのバージョンもある。



ACID Music Studio 7のパッケージ。

ACID Pro 7の動作環境

ACID Pro 7の最低動作環境は以下の通りだ。

- Microsoft Windows XP (SP2以降)、Vista
- 1.8GHzのCPU (2GHz以上を推奨)
- 1GB以上のメモリー (2GB以上を推奨)
- 150MBの空きハードディスク (プログラム=アプリケーションのインストール用)
- Windows互換サウンドカード (ASIOドライバーを推奨)
- DVD-ROMドライブ (プログラムのインストールに必要)
- サポートされたCD-Rドライブ (CD書き込み時のみ必要)
- Microsoft .NET Framework 3.0
- インターネット接続環境 (Gracenote MusicIDサービスに必要)

またハードディスクの容量だが、プログラムのインストール用の他に、ループファイルやMIDIデータなどの付属のコンテンツに4GB近く必要になることに注意しよう。

MIDI

Musical Instrument Digital Interfaceの略で「ミディ」と呼ぶ。ハードウェアまたはソフトウェアの楽器を、デジタル信号により制御するための非常に幅広い規格だ。ここでは、音階や音の長さなどを指定してメロディやドラムパターンなどを作成するという意味だ。

ユーザ登録について

ACID Pro 7のインストール後、30日以内にオンラインでのユーザ登録が必要となる。

ドイツのスタインバーグ社

DAWアプリケーション「Cubaseシリーズ」の開発元。

レイテンシー

オーディオデバイスに入力された音がパソコンの中を通り、処理されたうえで、またオーディオデバイスに戻ってきて聴こえるまでの時間。通常「ms（ミリ秒、1秒の1/1000）」で表される。

IEEE1394 (FireWire)

「アイトリプリー 1394」または「ファイヤーワイヤー」と呼ばれる。AV機器などとパソコンとを接続する高速シリアルバス規格。

24ビット／96kHzの高音質

ビット（量子化ビット数）とkHz（サンプリング周波数）は音の解像度を表しており、通常のオーディオCDは「16ビット／44.1kHz」となっている。つまり、オーディオCDよりも良い音質でレコーディングと再生ができるということ。

バスパワー

パソコン本体から供給される電源のこと。AUDIOFIRE4は6ピン仕様のIEEE1394端子でバスパワー動作が可能。ノートパソコンなどに搭載されている4ピン端子の場合、付属のACアダプターを使用すればOKだ。

オーディオデバイス（サウンドカード）について

最低動作環境の項目に「Windows互換サウンドカード（ASIOドライバーを推奨）」とある。これはACID Pro 7をインストールしたパソコンでサウンドの入出力を行うためにはサウンドカードが必要で、さらにASIOドライバー対応のオーディオデバイスを使うように、ということである。

ASIO（アジオ、またはエーエスアイオー）ドライバーとは、**ドイツのスタインバーグ社***が開発した音楽制作に特化した高速な入出力を可能にするドライバーのことで、正式には「Audio Stream Input/Output」という名称だ。

通常のパソコンに装着されているサウンドカード及びドライバーは、パソコンでCDを聴いたり、起動音を鳴らしたり、あるいはゲームを楽しんだりするためのシステムで、パソコン内から出力するだけなら問題はない。

しかしながら、

- 音の劣化が大きい
- 入出力の際に音が遅れる（レイテンシー*が発生する）

…という現象が起きる。両方とも音楽制作において致命傷となる症状である。

レコーディングした音が悪くなるのも問題だが、レコーディングする際に、演奏している音が遅れて聴こえてきたら演奏どころではなくなる。これを解消するためのドライバーが「ASIOドライバー」である。

本書では、このASIOドライバーに対応しているオーディオデバイスECHO Audio社「AUDIOFIRE4」を使用している。AUDIOFIRE4は、合計6イン／6アウトの入出力を持ち、**IEEE1394 (FireWire)***端子を使用してパソコンと接続する。**24ビット／96kHzの高音質***を誇り、ファンタム電源を装備し、さらに**バスパワー***で動作が可能だ。

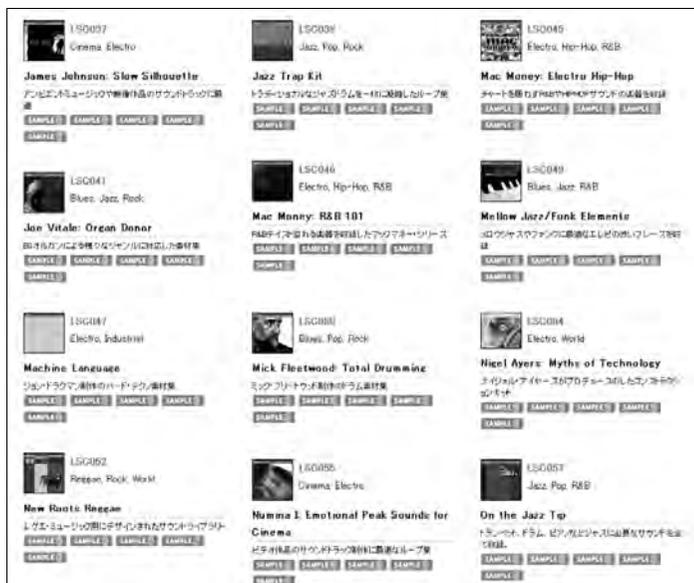


ECHO Audio社のAUDIOFIRE4。

ACID Pro 7ならではの曲作りのメリット

1. 面倒な「打ち込み」の必要がない!

ループとは前述の通り数小節からなるオーディオファイルのことだが、このループはACID Pro 7に多数付属している他、ACID Pro 7の製造元であるSony Creative Softwareを始め、世界中のメーカーから「ループ集」が発売されている。多彩なジャンル、目的、楽器、プレーヤーなどが用意されており、ユーザーは自分の好みに合ったループファイルをピックアップし、自由な発想で曲作りができる。通常のDAWアプリケーションの場合、まず自分でアイデアをひねり出し、そこから「打ち込み」*をしていかなくてはならない。しかしACID Pro 7ならば、すでに演奏データがループとして存在しているので、そこからチョイスするだけで曲作りを開始できる。



ACID Pro 7ですく使えるループライブラリー集。テクノからロック、ラテン、ジャズ、クラシックなどあらゆるジャンルを網羅しており、曲作りのアイデアは無限だ。

2. ノリの良い演奏を、知識や技術がなくても再現できる!

ループファイルは基本的に人間の演奏が収録されている。つまり生の演奏がそのまま収められているので、生き生きとした表情溢れる演奏を元に曲作りができるのだ。ギターが弾けなくても、ドラムを叩けなくても、そして人間らしいデータを作る打ち込みの知識がなくても、それらはすべてループファイルとして用意されている。ユーザーはドラッグ&ドロップするだけで、「世界中のプロミュージシャンの演奏」を使って曲作りができるというわけだ。

打ち込み

演奏データを数値、音符などで入力すること。ACIDシリーズが登場する前の一般的な入力方法で、パソコンのキーボードをカチャカチャ叩いてデータを入力することからの「打ち込み」という名がついた。

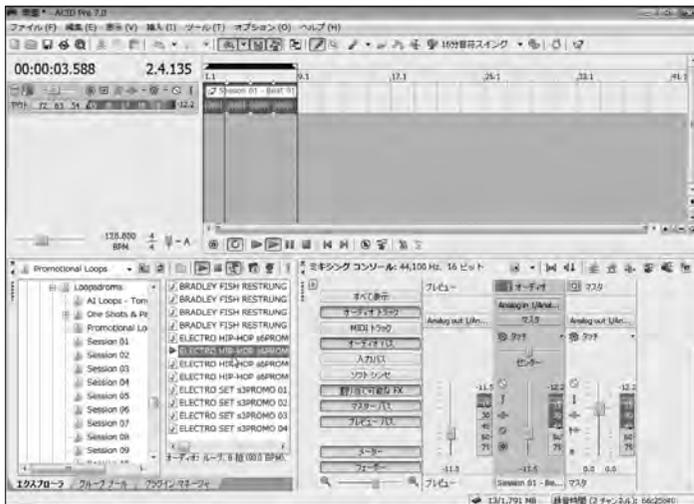
トラック

オーディオなどのファイルを収納する単位。陸上競技の「トラック」と同じ意味で、競争者が各トラックに並びそのレーンに沿って走って走らるるものだ。違いは、陸上競技のトラックでは競争者が各々のスピードで走らるるのに対し、音楽制作でのトラックでは、並べられたファイルがすべて同じスピードで走る（再生する）ということだ。ACID Pro 7ではこのトラックを、パソコンの性能にもよるが基本的に無制限に作成できる。

3. ドラッグ&ドロップとプレビューで、次々に曲を構成できる！

自分のイメージするループファイルが見つかったら、それをダブルクリックするか、トラック※へドラッグ&ドロップする。そして目的の長さに調整するためにドラッグする。たったこれだけで、ループファイルを再生することができる。さらに別のループファイルをクリックすると、トラックで再生されているループファイルとテンポが同期して再生（プレビュー）されるので、次に加えるべきループファイルを把握しやすい。

現時点において、トラックで再生させながら、次に加えようとするループファイルをクリックするだけで同期させることができるのはACIDシリーズだけである。

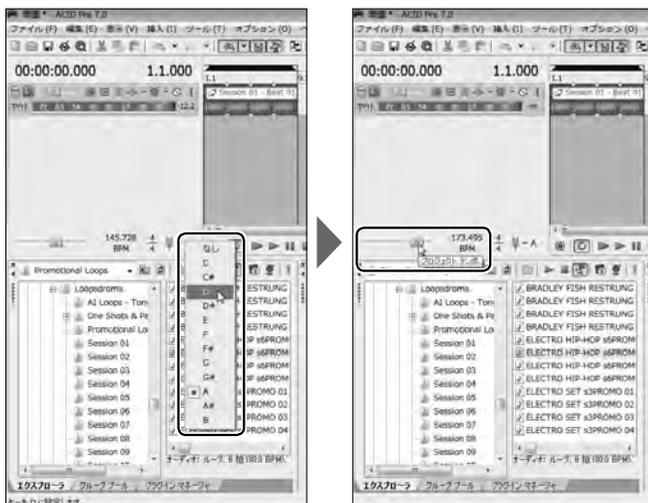


次に加えるループファイルを探す場合、すでにトラックへドラッグ&ドロップしたループファイルと同期させることができるので、イメージをつかみやすい。

4. キーやテンポが自由自在に変更できる！

ACIDシリーズ用に「アシッドサイズ」されたループファイルは、キーやテンポを自由自在に変更することができる。これはアシッドサイズの際に埋め込まれている情報に基づいて、ACIDシリーズが判断して自動的にすべてのループファイルを調整してくれているからである。

近年では、他のDAWアプリケーションでもこのような機能を持つものもあるが、ACIDシリーズのようにユーザーが何も考えなくても、思いっただけで簡単に、しかもリアルタイムでできる域には達していない。この操作の簡易さは、ACIDシリーズ誕生以来のアドバンテージである。



曲（プロジェクト）のキーやテンポの変更がリアルタイムで可能なのがACIDシリーズのメリット。もちろん曲の途中や特定のループファイルのみ変更することも可能だ。

5. ループファイルの長さを1アクションで設定できる！

ACID Pro 7は、トラック上のループファイルをドラッグするだけで長さを設定できる。一見なんでもなさそうな機能だが、ACIDループに対応したDAWアプリケーションでもまだまだ同じことができるものは少ない。読み込んだループファイルをコピーし、次の小節にペーストする※という手間が必要なのだ。その点、ACID Pro 7では好きな長さに簡単に設定でき曲制作の効率が良い。



トラック上にあるループファイルの終わりの部分を右方向へドラッグするだけで簡単に好きな長さに設定できる。もちろん、縮めることも可能だ。

ループファイルをコピーし、次の小節にペースト

この作業を簡略化したDAWアプリケーションもあるが、1アクションという訳にはいかない。このことから、ACID Pro 7の基本設計は優れているといえるだろう。